



YMCA阿南国際海洋センターでのピンクシャッター。ユースボランティアリーダーや職員がピンクの軍手に想いを書きました。

確かな未来に向けて!



大阪YMCA
会長
なかがわよしひる
中川 善博

近年、街なかや車中で多くの外国人に出会うことは、日常的風景になっている。インバウンドと呼ばれ、観光やショッピングで日本に殺到する旅行者の姿が毎日のように報道される。一方、乳幼児を抱えて紛争地から陸路やボートで逃げる人々の映像を見るにつけ、あまりにも大きな落差に複雑な思いに陥ってしまう。地球社会が、戦争の世紀といわれた20世紀から平和な世紀と願った21世紀が、いままテロや殺戮、民族や宗教間紛争の悲惨な現実と決別できず、子どもたちが未来に夢をもてない世界の姿に、改めて平和の大切さを痛感する。

日本においても、戦争の無い時代が70年続いてきたとはいえ、格差や貧困が社会を蝕み、政治や経済に対する不信任・不安感が社会を覆い、将来に希望を見出すことが困難な時代にあるといえる。

そうした中で、大阪YMCAの今年度の聖句である、「**確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。**」(箴言23章18節)は、強く私たちに迫り勇気づけられる思いがする。あたかも、不透明感が漂う社会にあって、現実をしっかりと見据えつつ、進むべき方向を確信し、希望をもって歩むよう語りかけているようだ。それはまた、YMCAの取り組みとそこに連なる一人ひとりの働きに対する力強いメッセージでもある。

大阪YMCAは、今年度「希望をもって共に生きる社会の実現に向かって～新しい出会いとアクションを!～」を基本方針として掲げた。YMCAは、常にその働きを通して、社会の課題に向き合い

社会を変えていく、挑戦者であり変革者・行動者でありたいと願い活動してきた。そこでは、YMCAに連なるスタッフ・ボランティアの一人ひとりが、事業や活動・プログラムを社会との関わりの中でとらえ、果敢な取り組みを通して自分自身をも変えて行く努力が求められている。こうした変革への挑戦は、ユースに期待されているチェンジメーカー・チェンジェージェントとしての働きにつながるとともに、ユースのみならず全てのスタッフ・ボランティアにも望まれている。

変革する力は、世代や立場・経験・背景を超えて、事業や活動に対する真摯な関わりや出会いを通して生まれ培われる。出会いは、志や思いなどを共有し行動を共にすることによって深まり、横につながって広がっていく。たとえ、小さな挑戦や行動であったとしても、ちょっとした変化を生むことによって、次の変化を起こす起爆剤になる。このような、挑戦を絶えず続けることにより変化のエネルギーが蓄えられ、組織や社会に革新がもたらされる。

YMCAは、こうした出会いの場や挑戦できる環境を整え、希望のもてる社会の実現に向けた働きを支えていく組織である。生き生きとした、YMCAの姿はそこに見ることができる。

眠れるYMCAの宝を呼び覚まし、輝きを取り戻すブランディングの取り組みも、こうしたYMCAの働きと立ち位置を明らかにする挑戦の一つでもある。

新しい年度の始まりとともに、YMCAに関わる一人ひとりが、変革者・挑戦者・行動者としてともに立とうではないか。

大阪YMCAの使命

- 大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。
- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人の力と力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

発行:末岡祥弘 編集:大阪YMCA広報室
〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-5-6
TEL 06-6441-0894 FAX 06-6445-0297
大阪YMCAのホームページでその他の情報をご覧いただけます。
URL: <http://www.wosakaymca.or.jp/>



全国YMCA 「協働」の意味を考える

■ 夢見るYMCAの姿に向かって 大阪YMCA ウェルネス事業部 部長 佐竹 博

私たちYMCAには使命があります。その使命実現によって、社会がより良くなっていくことを願っています。その時代背景、地域性によって事業や活動が生まれ、社会情勢、地域の変化によって役割を果たした事業が新たなものに生まれ変わっていく。そういった変化を繰り返しながら、YMCAは常に新しくされ今日に至っています。

YMCAはたくさんの事業を行い、多様な人びとや地域に関わり、より良い社会の実現を目指して事業を行っています。この社会の仕組みの都合により複数の法人格を持っていますが、私たち職員は「公益財団法人の佐竹です」と名乗るより、「ウェルネス事業の佐竹です」と、その業務によって紹介し、紹介されます。これは、「私はウェルネス事業を通して、YMCAが目指すより良い社会のために、貢献する公益的な働きに就いています」という意味だと思っています。YMCAは形ではなく、中身であると思います。



東YMCAのリーダーたちとピンクシャツデー。後列左端が佐竹さん。

全国YMCAでは、昨年より本格的にブランディングへの取り組みが始まり、今年にはピンクシャツデーによって一つのムーブメントを共に歩みだしました。各地域のYMCA間の協働はますます重要な意味を持ち始めています。大阪YMCAは、他地域YMCAと具体的な事業協力を実践するため、スタッフ交流による事業推進を行っています。今月は、この1年、大阪YMCAに協力主事として運動を担ってこられた3人にそれぞれの「協働」への取り組みや思いを語っていただきます。

大阪YMCAに来て触れた地域性や課題、出会った方々は、とても刺激的でした。両YMCAの組織が持つ課題も学ぶことができました。横浜YMCAで参考にさせていただきたいことがたくさんありました。個々のYMCAの課題解決や、スタッフの成長のために全国協働・人事協力は継続して、これからも大いに推進するべきと感じます。私が感じた貴重な経験と、得ることのできたたくさんの学びを途切れることなく多くのスタッフに体験していただきたいと思います。

しかし、もっと重要なことは、個々の課題は違っても同じYMCAとして人や地域・社会に関わるYMCAの動きは同じであるということです。違いを見聞きするより、同じであることを知り、「どうやってそれぞれの個性を生かすつつ共に生きる(働く)方法を見いだすか」、すべての事業で取り組んでいるYMCAそのものの目標が今、各YMCA間に求められているのだと感じます。YMCAブランディングの取り組みはその一環であると思います。

私は夢見えています。いつか、どこで働いているスタッフでも、「〇〇YMCA」と言わずに、自分の担当業務だけで自己紹介ができる日が来ることを。

私は夢見えています。いつか、どこで働いているスタッフでも、「〇〇YMCA」と言わずに、自分の担当業務だけで自己紹介ができる日が来ることを。

■ 日本語教育における事業協力の推進 大阪YMCA 中期計画推進本部 部長 / 北九州YMCA 総主事 小川 健一郎

日本YMCA同盟に連なるYMCAは、北は北海道から南は沖縄まで35あります。YMCA運動を発展させるために、これらローカルYMCAの力を結集し、オールジャパンの視点で運動・事業を展開しようという日本YMCA同盟中期計画(2014-2016年)を推進しています。その中に、日本語教育、アフタースクールの2つを重点事業として全国で事業協力を進め、オールジャパンYMCAの成果を生み出す取り組みがあります。

YMCA日本語教育は、全国15か所日本語学校を設置して教育を行っています。過去5年間、全国YMCA日本語学校の在校生は4月の時点で約1,300人、11月には1,600人という人数で推移してきました。中期計画では、各YMCAで募集協力を促進し、2,000人達成を目標に掲げました。各YMCAの募集担当者は、アジアを中心に募集活動を行っています。この春の募集にあたり、YMCA共通のポスターを作り、各国に持参して掲示してもらいました。また、大阪YMCAの募集担当者は、東京に行きたいという学生がいたら東京YMCAに紹介し、熊本に行きたいという学生がいたら熊本YMCAに紹介するというシステムをつくりました。



日台YMCAワークショップ(2016年1月20日/北九州YMCA)にて。台湾から16名、日本から30名の日本語担当者が集まり、主に学生の協働募集について協議した。

の共同募集の努力の結果、2016年1月時点で在学学生は2,159人となりました。日本語学校と専門学校の協力も模索しています。2016年2月マンマーマン・マンダレーにて、YMCAの日本語教育とホテル専門学校の募集説明会を開催しました。ポスターはもちろん、大阪、東京、北九州の各YMCA日本語学校とホテル専門学校の資料を持参し、ホテルを会場に説明会と体験授業を実施し、80名が参加しました。

現在、新たに、ICTの活用による業務の効率化を全国YMCAで図ろうとしています。各YMCAにおける、学生管理のICT化にはバラつきがあります。2016年度は、大阪YMCAのシステムを北九州YMCAにも導入して、業務の効率化を図るモデルをつくる計画です。

私たちYMCAは、使命に裏付けられた確かなミッションを持っています。ミッションを達成することは、学生や生徒が増え認められるということです。全国YMCAで、その結果を出すために事業協力を進めて参ります。



左が小川さん
YMCA共通の日本語教育ポスター



■ YMCAの大切な価値 大阪YMCA 企画開発室 部長 秋田 正人

「協働」とは、互いの「価値」をぶつけ合い、その中から新たな「価値」を生み出していくことである。私はそう考えています。そうした視点から、今日は、私は何に価値を置いているか、という話をしたいと思います。

私が今のYMCAで一番大切だと思っている「価値」それは「ヒトと地域のネットワークの中から、新しい文化を生み出すこと」です。そしてそれは私のこれまでの経験に裏打ちされています。

まずは、東京YMCA時代に「私が直接担ったもの」の例を挙げてみましょう。高校生のボランティアグループ「てのひら」、母子家庭の子どもたちのキャンプ、不登校をはじめとする様々な状況の子どもたちを受け入れる場「Liby(リビー)」、新宿子どもネットワーク等多数あります。そして私は直接担いませんでしたが、関与してきたものとしては、親子の居場所「ゆったりー」や戸山あそび場、外国人児童生徒のための日本語と学習教室「こどもクラブ新宿」、「市民社会をつ

るボランティアフォーラム」等。新宿区では、自治基本条例作りに参画したり、委託を受けて、協働事業も行ったりもしました。さらには文科省や、内閣府の事業のお手伝いも。このどれ一つとして自分だけの力でできたものはありません。そこには常に会員や、ワイズや、リーダーOB・OGや、その知り合いや友だちとしてのヒトがいて、様々なネットワークがありました。そしてそこでできた組織は、運営面に留まらず、資金の調達や立ち上げ支援など、相互に支えあいました。これこそ私が関わるYMCAの「価値」なのです。

「公共」とは、こうした一人ひとりによって創られていくものです。決して「行政」が行っているから「公共」とは限りません。こうした精神は大阪商人も同じだと思います。大阪の地で新しい文化を共に創っていきましょう。



ドイツ自立支援研究報告会にて。前列左から2人目が秋田さん。



大阪YMCA ピンクシャツデー

大阪YMCAでは、これまで、「イジメ」をなくすための様々な教育や研修、指導と対策を行ってまいりましたが、世界的なイジメ反対運動である「PINK SHIRT DAY」に賛同し、全国のYMCAと共に、広く社会的にイジメのない世界を目指すことを呼びかけるため、2016年1月から3月にYMCA PINK SHIRT DAY(ピンクシャツデー)2016を実施いたしました。

※ピンクシャツデーについては、大阪青年1・2月号併号4面をご覧ください。



表コミ生(表コミ)の作品

♥ YMCA全体がピンク色、数千人規模の一大キャンペーンになりました!

大阪YMCA全事業所にてイジメに反対するための多様な発信を行い、クラスやプログラムの参加者、生徒や学生、園児と保護者、ユースボランティアリーダー、教職員、企業様、地域の方々など多くの皆様が参加しました。ピンク色のものを持参して写真撮影によるアピールを実施、Facebookやブログなどに掲載しました。また、各事業所や館をピンクシャツデーのポスターや制作物で装飾しました。

南館では、YMCA学院高校の生徒、プレスクールや英語幼児園の園児、ユースボランティアリーダー、教職員、さらには台北YMCAからのゲストなど、南館に集まる様々な事業所が合同で大きなシャツを作りました。



大阪YMCA国際専門学校 表現・コミュニケーション学科(表コミ)で行われた「いじめを考える授業」の様子が、2016年2月20日(土)の毎日新聞に掲載されました。

土佐堀館では、表現・コミュニケーション学科「アートクラブ」の皆さんが飾り付けをしてくださいました。
YMCAとさぼり保育園の園児たちが絵付けしてくれたたくさんのシャツが、土佐堀館1階ロビーに飾られました。
ウェルネスの各事業所では、ピンクシャツデーの紙芝居を作り、活動の中で子どもたちに読み聞かせて、案内しました。



地域の幼稚園の協力を得て、サッカーや体操クラスの子どもたちと参加しました。
アクアティック(水泳クラス)では、リーダーたちがピンクの水泳帽を被って指導にあたりました。
YMCAしろがね幼稚園の送迎バスもピンクシャツデー仕様にしました。



♥ ピンクのものに身をつけて参加してくださいました

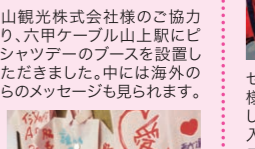


▲ユースバスケットボールクラスでは、お揃いのピンクのタオルを制作!

▼YMCAサンホームのご利用者。ピンクの靴下を履いてくださっています。

♥ 3400名以上の方がイジメに反対するメッセージを発信しました!

ピンクシャツの折り紙や台紙を作成し、イジメをなくすためのそれぞれの想いを書き入れ、各館、事業所のロビーなどに掲示しました。



大阪YMCA学院(上町)では、英語、韓国語、中国語、ベトナム語など多言語で案内を作ったり、留学生やチューターさん、教職員が、少しずつ書いたメッセージでハートを作りました。



株式会社ミカサ様よりピンク色のフットサルボールをご提供いただきました。サッカー練習、プログラムにて使用しました。

ピンクシャツデーにご参画、ご協賛、ご協力をいただいた皆様、企業様、地域の皆様にご心より感謝申し上げます。今回のキャンペーン終了後も、大阪YMCAは引き続きイジメのない世界を目指してまいります。イジメ撲滅に向けた皆様のご協力をお願いいたします。
ウェブサイト <http://www.osakaymca-action.org/Events/pink-shirt-day/index.html> Facebook <https://www.facebook.com/ympcapinkshirtday/>

つながり広がる“Yの世界”

新たな地平線 —文化的産物—

みずさわまなぶ
HHリーダー会 水澤 学

世界を旅するのが好きで、日頃から子どもに接していることもあり、聴覚障がい青少年国際キャンプ(HHキャンプ)でボランティアリーダーを務めさせていただいたのをきっかけに大阪YMCAとご縁ができました。

当初は当日のプログラムに協力するといった限定的なものでしたが、回を重ねるごとに企画段階から関わることができるようになり、以前にも増して自分たちのもの見え方を多くの方に理解していただいています。

その後、2011年には参加者OB・OGでHHリーダー会を立ち上げることができました。そのことによって、自分たちの取り組みを紹介する機会に恵まれただけでなく、セカイが広がったことを実感しています。

大阪YMCA大会2015のユースフォーラムでは、「①つながり②多様性③場所」の3つのキーワードが挙がり、2016年度のプログラムにこれらのキーワードが反映されるとのこと、願ってもないことです。

私は、聴こえない人が利用することのできるリソースを作り上げていく可能性を見出しています。

最後に、今年の夏に開催される第36回聴覚障がい青少年国際キャンプの成功にむけて、応援をよろしく願っています。



2015年度 HH国内キャンプにて

第36回 聴覚障がい青少年国際キャンプ(HHキャンプ)

日 程… 2016年8月8日(月)～13日(土)

場 所… 六甲山YMCA グローバルラーニングセンター

大阪YMCA 早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第276回 日 時… 2016年4月15日(金) 7:30～8:30

奨 励… 石井 和典さん
(日本キリスト教団 大阪のぞみ教会 牧師)

場 所… 大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ 大阪YMCA 本部事務局 総務

【TEL】06(6441)0894 【E-mail】info@osakaymca.org

2016年度 大阪YMCA
基本方針・年間聖句・年間讃美歌
が決定しました!

2016年度 基本方針

「希望をもって共に生きる
社会の実現に向かって」
～新しい出会いとアクションを!～

願い: ユース世代が大阪YMCA大会やグローバルユースカンファレンスで自分の言葉で語り、新しい出会いが生まれています。また、Yボランティア(会員)の集いでは、興味のあるグループに参加している人が生き活きと発表し、出会いや新しい動きを起こそうとする大阪YMCAの意図や意義が形になり始めました。世代間を超えて出会い、希望をもって共に生きるための課題と活動に積極的に、力強く取り組んでいくことを願っています。2016年、私も、あなたも新しい出会いがあり、一歩踏み出すアクションができることを願って基本方針を策定しました。

2016年度 年間聖句

「確かに未来はある。
あなたの希望が断たれることはない。」

(箴言23章18節)

願い: どんなに苦しい状況にあろうとも、神様は、常に希望を持って私たちに寄り添ってください。前を向きながら未来を信じる希望が語られており、私たち大阪YMCAに連なるすべての人々が、共に新しい時代を創ろうと力強く歩む姿を示している聖句です。

2016年度 年間讃美歌

讃美歌21-575番

「球根の中には」

願い: 希望を待ち望み、与えられるべき喜びを信じる決意が謳われており、未来への希望を持つことができる年間聖句とも共通します。また、子どもから大人まで幅広く共感できる歌詞と親しめるメロディーです。

2016年1月25日 理事長協議会承認

■会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2016年2月度報告・敬称略

【新規会員】
高橋 直也

榎辺 悠介
阪本 聡子

本間 裕加里
宮田 眞麻

【継続賛助会員】
株式会社イマイチ
株式会社藤木工務店

【継続会員】
岡本 夏美

鈴木 良洋
谷川 寛
福田 成美

安田 萌
柳谷 利起